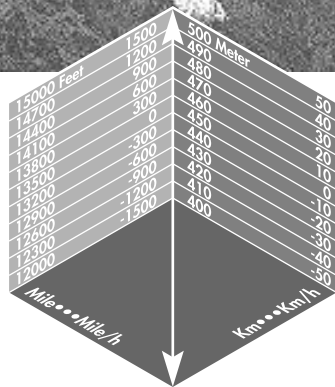


取扱説明書



CATEYE® CYCLOCOMPUTER

CC-AT100
WITH ALTIMETER FUNCTION



はじめに

このたびはCATEYE CC-AT100をお買上げいただき、ありがとうございます。本器は通常のサイクロコンピュータの機能に加え、圧力センサーで気圧の変化を検出し、高度や気温を計測するサイクロコンピュータです。MTB等における山岳走行時の海拔高度(標高)や、登坂高度などを計測でき、最大分解能として1mの計測を実現します。またナイトランで威力を発揮するバックライトを搭載します。自転車から外して登山時などの高度計としてもお使い頂け、次のような特長を持ちます。

高度計測の機能

- ・ 温度補正機能により、1mの分解能で海拔高度(標高)/登坂高度/累積高度を計測できます。
- ・ 気温を計測できます。
- ・ 登坂高度だけのリセットが可能です。
- ・ 2通りの高度計測モードにより、用途に合わせた使い方が選択できます。
- ・ オプション部品で自転車以外の用途に対応します。

サイクロコンピュータの機能

- ・ 走行速度、最高速度、平均速度、積算距離、走行距離、走行時間、時刻の計測とオートスタート/ストップ機能
- ・ 最高速度、平均速度、走行距離、走行時間だけのリセットが可能です。

メインユニットの機能

- ・ ディスプレーが発光し暗闇でもデータ確認が容易です。
- ・ クリアー操作による蓄積データの消失を保護。電池交換時にも積算距離/累積高度/タイヤ周長等の記憶が失われません。

使用の前にこの説明書を最後まで良くお読みいただき、本器の機能を十分ご理解の上、末永くご愛用ください。またこの説明書は後々お役に立ちますので保証書と共に大切に保管願います。

目次

各部の名称と部品	76
正しくご使用いただくために(必ずお読みください)	77
セットアップ	
1. 電池の入れ方	78
2. メインユニットのセット	78
ボタンの働き	80
高度計測機能の使い方	
1. 高度計測機能とは	81
2. 自転車モード	82
3. 常時計測モード	82
4. 高度計測モードの切り替え(自転車マークの点灯 / 消灯)	82
5. 海拔高度(標高)の補正	82
サイクロコンピュータの使い方	
1. 自転車への取付け	83
2. オートモード機能	84
3. 節電機能	85
計測と表示の機能	85
トラブルと処理	87
日常の手入れ	89
交換部品 / オプション部品	89
製品仕様	90
タイヤ周長ガイド	91
保証規定	91

各部の名称と部品

メインユニット

A ディスプレー

- 1 メインディスプレイ
- 2 サブディスプレイ
- 3 自転車マーク
- 4 高度マーク
- 5 モードマーク
- 6 速度単位
- 7 気温単位
- 8 オートモードマーク

B スタート / ストップ (S/S) ボタン

C モード (MODE) ボタン

D ライト (LIGHT) ボタン

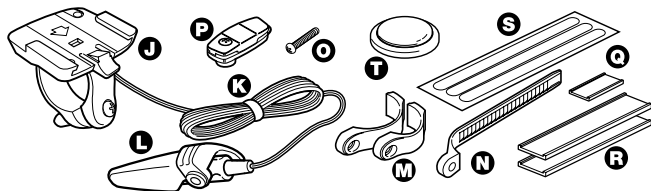
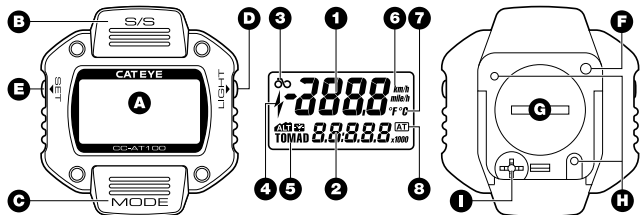
E セット (SET) ボタン

F ACボタン

G バッテリーカバー

H 接点

I 高度センサーキャップ / フィルター



付属品

J ブラケット

K コード

L 速度センサー / センサーホルスター

M センサーバンドA (L)(S)

N センサーバンドB

O センサーネジ

P マグネット

Q センサー用ゴムパッド

R ブラケット用ゴムパッド (2枚)

S コード止めテープ

T リチウム電池CR2032

正しくご使用いただくために（必ずお読みください）

本器を安全に、末永くお使いいただくために次の点を守ってご使用ください。



警告



注意



保守

- ・ 走行中はデータに気を取られないで、安全走行を心掛けましょう。
- ・ 本器による高度計測値はあくまでも目安としてお使いいただくもので、専門的な計測器としては使用しないでください。
- ・ メインユニットは分解しないでください。復元できません。
- ・ メインユニットには繊細な部品が内蔵されています。通常の使用状態以外の過激な衝撃は故障につながります。また故意に水圧をかけることも禁物です。
- ・ メインユニットは雨中走行に耐えるよう完全防水ですが、水中で使用するようには設計されていません。
- ・ 炎天下の放置は避けてください。
- ・ 温度センサーはメインユニット内にありますので、直射日光でメインユニットが加熱された場合等正しい気温を表示しません。
- ・ 天候は刻々と変化しますが、これは気圧が常に一定でなく変化していることによるものです。高度計測の元となる気圧が変動しますので、いつも同じ場所で同じ海拔高度になるとは限りません。
- ・ 海拔高度の補正は走行ごとに行なってください。
- ・ 室内から戸外へ出たときなど一時的に高度表示が変化することがありますが、温度変化によるもので故障ではありません。しばらくすると正しい値に戻ります。
- ・ 自転車から外して高度計として使用するときは、自転車マークを消灯させ、常時計測モードにしてください。
- ・ まれに静電気等により、計測データが異常な値を示すことがあります。
- ・ S/S / MODE / SETの3個のボタンを同時に押すと蓄積したデータが失われます。ご注意ください。
- ・ 飛行機内は圧力調整されていますので正しい高度計測はできません。
- ・ メインユニットやブラケットの接点が濡れた場合、放置しないで良く水分を拭き取ってください。サビが発生した場合、速度検出不良の原因となります。
- ・ マグネットと速度センサーは確実に固定し、取付位置を定期的に点検しましょう。不確実な取付は事故につながります。
- ・ 高度センサーキャップに泥等が詰ると、高度計測ができなくなります。日常の手入れに従い掃除してください。
- ・ 本体や付属品が泥等で汚れたときは水で軽く洗い流したり、薄い中性洗剤で湿らせた柔らかい布で拭いたあと、空拭きします。シンナー、ベンジン、アルコール等は表面を傷めますので使わないでください。

セットアップ

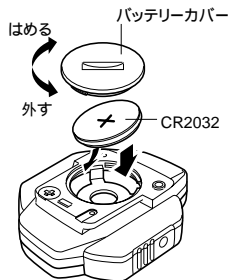


図1

1. 電池の入れ方

1. メインユニット裏面のバッテリーカバーをコイン等で外します。(図1)
2. リチウム電池 (CR2032)を1個使用します。図のように+側が見えるように入れ、バッテリーカバーをしっかり締めます。
3. ACボタンを押してから、「2.メインユニットのセット」に従い、速度単位 / 温度単位と時刻の設定を行なってください。

電池の交換

電池の寿命がきたら下記の注意事項を守って交換してください。

⚠警告 取り出した電池は幼児の手の届かないところに置き、正しく処理してください。万一飲み込んだ時はすぐに医者と相談してください。

参考電池寿命: 約1年

(高度計測を1日当たり1時間行なった場合)

⚠注意 ライトボタンを押すと表示が消えたり、頻繁に海拔高度が異常な値を示す場合は電池の寿命です。早めに交換してください。

⚠注意 電池交換する前に、必ずメインユニットを5分以上放置して節電機能を働かせ、最新のデータを記憶させてください。(85ページ: 節電機能参照)

2. メインユニットのセット

始めて使用する前に次の準備が必要です。

-1. まずタイヤ周長を求めてください

自転車のタイヤ周長を実測して求めます(図2)。タイヤ接地面にペンキ等で印を付けて転がし、路面についた印の間隔を測って求めてください。

補足 簡易的にタイヤ周長ガイド(91ページ参照)で自転車のタイヤサイズから周長cm(L)を知ることができます。



図2

図3

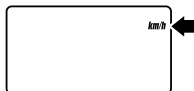


図4



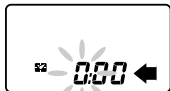
図5



図6



図7



-2. 速度単位をセットします

ACボタンを押すと画面は一旦全点灯し(図3)のように"km/h"が点灯します。S/Sボタンを押すと"km/h"と"mile/h"が切り替わります。希望の速度単位を選び、SETボタンを押して設定します。"km/h"を選ぶと"m"、"mile/h"を選ぶと"feet"の高度単位になります。

-3. 気温単位をセットします

速度単位を設定すると(図4)のように"°C"が点灯します。S/Sボタンを押すと"°C"と"°F"が切り替わります。希望の気温単位を選び、SETボタンを押して設定します。

-4. タイヤ周長をセットします

あらかじめ"203 cm"(MTBタイヤ26 x 1.50の標準的周長)がセットされています(図5)。203 cmの周長をそのままで用いるときは、SETボタンを押します。周長203 cmが設定されます。変更したい時は、タイヤ周長が点滅している状態でS/Sボタンを押すと数字が+します。MODEボタンを押すと-します。ボタンは押し続けると早送りします。-1.で求めた周長の数字を表示させます。SETボタンを押して設定を終了します。

補足 一旦タイヤ周長を設定して使用すると、以後その値がタイヤ周長の初期値になります。

*途中でタイヤ周長を変更できます

サブモードのQ(積算距離)表示で速度が0の状態にして、SETボタンを押すとタイヤ周長を変更できます。-4.の要領で設定をやり直します。

-5. オートモード機能をオンにします

MODEボタンを操作し、メインモードのT、DまたはA表示に切り替えます。S/Sボタンでストップ状態にし、SETボタンを押すとATマークが点灯して(図6)オートモードになります。(オートモード機能:84ページ参照)

時計の時刻合わせ

MODEボタンを操作し、サブモードの時計表示にして速度が0の状態です。SETボタンを押します。(図7)S/Sボタンを押す毎に点滅している「時」が+1します。押し続けると早送りします。MODEボタンを押すと「分」が点滅するので、S/Sボタンで「分」を合わせます。このとき現在時刻の1分先の「分」を表示させます。表示した時刻の時報に合わせてSETボタンを押すと、正確な時刻のセットが完了します。(時計は12時間表示で、午前午後の区別はありません。)

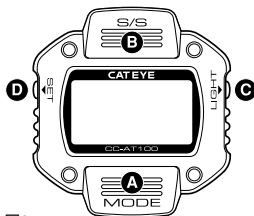


図8

MODEボタンによる表示の動き



図9

普通押し
➤ 長押し

ボタンの働き

A 下部ボタン (MODE ボタン)

- ・メインモードを図9の順序で切り替えます。メインモードの時、メインディスプレイは走行速度を表示します。メインモードはそれぞれサブモードを持ちます。
- ・サブモードを表示するにはこのボタンを押し続けます。(図9)サブモードからメインモードへ戻るときはこのボタンを普通に押します。サブモードからモードを変えるには一旦メインモードに戻します。

B 上部ボタン (S/S ボタン)

- ・走行距離 (D)、走行時間 (T)、平均速度 (A) の計測をスタートまたはストップします。ボタンを押す毎に計測をスタート、ストップし、計測中は速度単位または温度単位が点滅します。
- * **AT** マークが点灯していると、このボタンは働きません。(オートモード機能:84ページ参照)

C ライトボタン (LIGHT 右側面)

- ・このボタンを押すとディスプレイが約3秒間発光します。

D セットボタン (SET 左側面)

- ・海拔高度の補正 ----- **Alt** 表示で速度が0の時に押す。 82ページ参照
- ・高度計測モードの切り替え ----- 累積高度 / 登坂高度表示で押す。 82ページ参照
- ・オートモードのオン / オフ ----- ストップ状態の時T,A,D表示で押す。 85ページ参照
- ・タイヤ周長の変更 ----- O表示で速度が0の時に押す。 79ページ参照
- ・時刻合わせ ----- 時計表示で速度が0の時に押す。 79ページ参照

AC ボタン (裏面)

メインユニットの記憶をクリアするボタンです。始めて使用する時と電池交換後や異常表示になった時に押します。画面は全点灯後、km/hが点滅します。このボタンを押しても、今まで蓄積したデータ(積算距離、累積高度)とセットしたタイヤ周長は消えません。メインユニットのセット(79ページ)に従い速度単位 / 温度単位と時計の時刻のみ再セットしてください。


リセット操作

上下のボタン(S/SとMODE)を同時に押すとリセット操作になります。この操作を行なうときの表示モードによって、リセットされる項目が違います。



走行距離 / 走行時間 / 平均速度 / 最高速度のリセット

高度計測以外の時、上下のボタンを同時に押すと走行距離(D)、走行時間(T)、平均速度(A)、最高速度(M)をゼロに戻します。

登坂高度のリセット

サブモードの登坂高度 / 累積高度を表示した状態で上下のボタンを同時に押すと、登坂高度()をゼロに戻します。

海拔高度(標高)補正のリセット

メインモードの海拔高度()を表示した状態で、上下のボタンを同時に押すと、海拔高度()補正値をゼロに戻し、初期設定の国際標準大気(ISO 2533)の値に戻します。

高度と気圧の関係

ISO 2533より抜粋(表1)

海拔高度	気圧	海拔高度	気圧
4500 m	577 hPa	600 m	943 hPa
4000 m	616 hPa	500 m	955 hPa
3500 m	658 hPa	400 m	966 hPa
3000 m	701 hPa	300 m	978 hPa
2500 m	749 hPa	200 m	989 hPa
2000 m	795 hPa	100 m	1001 hPa
1500 m	845 hPa	0 m	1013 hPa
1000 m	899 hPa	±100 m	1025 hPa
900 m	910 hPa	±200 m	1038 hPa
800 m	921 hPa	±300 m	1050 hPa
700 m	932 hPa		

高度と気圧の関係

海拔高度が高くなるに従い、気圧は低くなります。海拔高度が500m以下の所では100mにつき約12hPaづつ変化します。(表1)

天候と高度に関するミニ知識

快晴で天気の良い状態から、雨・曇りなどの天気の悪い状態に変わったときの気圧の変化は、高度で言うと約100mの上昇に相当します。雷雨が来た際などはもっと大きな変化に相当します。また、たとえ天候がずっと快晴で安定していても、日の出から日没にかけての空気温度の変化により約30mの高度変化に相当する気圧の変化が起こります。

高度計測機能の使い方

1. 高度計測機能とは

本器は圧力センサーを内蔵し、大気圧を測定して高度を計測します。国際民間航空機構(ICAO)が定める国際標準大気を元に作られた、ISO 2533 (Standard atmosphere)の高度と気圧の関係を使って高度を推定します。通常圧力センサーは温度により大きな誤差を生じますが、本器では20秒ごとに温度補正を加え分解能1mの計測を実現しています。また、海拔高度(標高)計測において走行中以外は気圧の変化を高度計測に反映しないモードを備え、大気圧の変化で起こる同じ場所で海拔高度(標高)が変わるということが起きにくい設計です。本器の高度計測は、海拔高度(標高)と登坂高度(現地点までの登った高さ) / 累積高度(今までに登った高さのトータル)の3つを同時に計測できます。

△注意 室内から戸外へ出たときや節電機能解除時などに、一時的に高度表示が変化することがあります。これは温度変化によるもので故障ではありません。しばらくすると正しい値に戻ります。

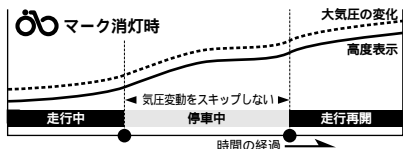
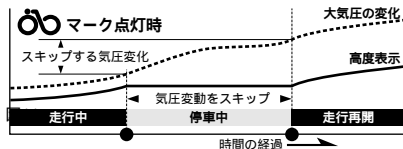


図10

2. 自転車モード（自転車マーク点灯）

自転車に装着して使用するときにはディスプレイに自転車マークを点灯させます（図10）。この場合スタート / ストップに関係なく速度信号が入っているときだけ大気圧の変化を高度計測に反映します。これにより、停車時に大気圧が大きく変化しても高度は変化しません。（図11）

△注意 走行中に気圧が大きく変化した場合は高度計測値に誤差が生じます。



3. 常時計測モード（自転車マーク消灯）

例えば登山や山歩きのように自転車からメインユニットを外して使用するときにはディスプレイの自転車マークを消灯させます。常に大気圧の変化を高度計測に反映します。（図12）

補足 **△AT**マークが点灯している場合、自転車から外すと時間の計測ができません。**△AT**マークを消灯させ、S/Sボタンの操作で計測のスタート / ストップを行ってください。（オートモード機能：84ページ）

△注意 MODEボタンを押すなどして節電機能が働かないようにしてご使用ください。

△注意 気圧は常に変化しますので高度計測値にある程度の誤差が生じます。

4. 高度計測モードの切り替え（自転車マークの点灯 / 消灯）

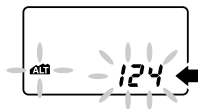
自転車マークを点灯（消灯）するにはMODEボタンを操作して、サブモードの累積高度 / 登坂高度を表示し、SETボタンを押します。SETボタンをもう一度押すと自転車マークは消灯（点灯）します。

5. 海拔高度（標高）の補正

大気圧は常に変化しています。走行中にも天候は変化しますので海拔高度の補正が必要になります。走行の度に、三角点等信頼のおける（高度確認ができる）地点での、海拔高度の補正をお勧めします。

補足 自分の家や近くの公共施設などの海拔高度を知っておくと補正に役立ちます。

図13



海拔高度（標高）補正の仕方

MODEボタンを操作してメインモードの海拔高度 Δ を表示します。速度が0の状態では、SETボタンを押すと海拔高度補正モードになります。(図13) S/Sボタンを押すと+し、MODEボタンを押すと-します。ボタンを押し続けると早送りします。その地点の海拔高度に数字を合わせます。補正が終わったらSETボタンを押します。

サイクロコンピュータの使い方

図14

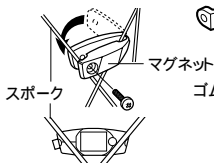


図15

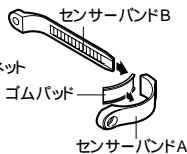


図16

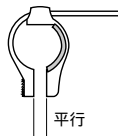


図17

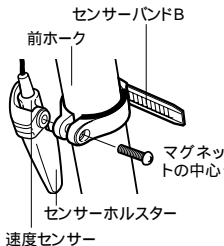


図18

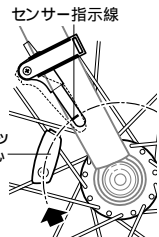
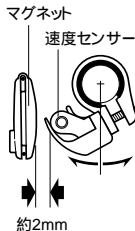


図19



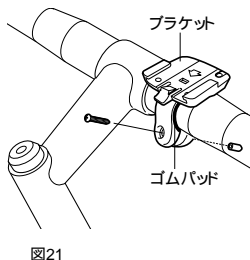
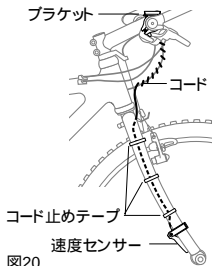
1. 自転車への取付

- マグネットを前輪右側のスポークを挟んで取付けます。この時スポークを(図14)のように通して取付けます。
- 右側前フォークに次の手順でセンサーバンドAとBを使い、速度センサーをセンサーホルスターと共に取付けます。センサーバンドAは速度センサー取付位置のフォークの直径(24まではS、それ以上はL)により選択します。

- (図15)のようにセンサーバンドAの穴にセンサーバンドBの先端を差し込み、ゴムパッドをセンサーバンドAに添わせめます。フォークにはめたときに、ネジ締め部がほぼ平行になるように長さを調整します。(図16)

補足 センサーバンドA、Bは強く引っ張ると抜くことができます。

- フォークに長さ調整したセンサーバンドをはめ、速度センサー / センサーホルスターと共にネジで仮止めします。(図17)
- マグネットの中心とセンサー指示線を合わせます(図18)。マグネットとの隙間を2mm前後に速度センサーの位置を調整してから(図19)ネジを締め込み、速度センサーをしっかり固定します。はみ出したセンサーバンドBはニッパー等でカットします。

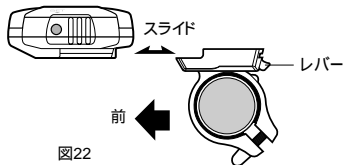


補足 スポークとホークの間隔が狭いとき、センサーホルスターを外して取付けることもできます。

- ・ コード止めテープで(図20)のようにコードを固定します。アウターケーブルに巻き付けて、ハンドルまで配線します。コードの長さをこの段階で調整します。ハンドルを回したときに、コードが引っ張られないよう注意します。
- ・ ブラケットにゴムパッドをはめ、ハンドルステムの近くに取付けます。(図21)

メインユニットの装着

メインユニットはブラケット前方より、スライドしてはめ込みます。カチッと音がするまで確実に差し込みます。接点は自動的に接続します。外す時はブラケットのレバーを押しながら、前方に引き抜きます。(図22)



テスト

メインユニットをブラケットに装着します。前輪を浮かせてタイヤを回し、速度が計測されるか確認します。計測しない時は、マグネットと速度センサーの位置をチェックし、調整をやり直します。

2. オートモード機能

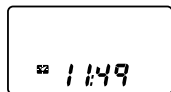
画面に「AT」マークを表示させると、S/Sボタンを使わずに計測をスタート、ストップできます。(図23) 通常はこの状態で使用すると便利です。節電状態でもこの機能を使うと自動計測を開始します。

- * 車輪の回転を検知してスタート、ストップするので、停車すると計測は止ります。
- * オートモードにしてブラケットに装着した時、約2秒ほど走行時間がカウントすることがあります。

△注意 本器を自転車から外して高度計として使用するときには、まずオートモードを解除し、S/Sボタンの操作で計測を行ってください。



図24



オートモードのセット、解除のしかた

MODEボタンを操作してメインモードのT, DまたはA表示にします。S/Sボタンでストップ状態にしSETボタンを押すと、**AT**マークが点灯しオートモードになります。SETボタンをもう一度押すと、**AT**マークが消え解除します。

4. 節電機能

約5分間、無信号状態が続くと電源がカットされ、(図24)のように表示だけのスリープ状態になります。車輪が回転して速度信号が入るか、上下のボタンのどちらかを1秒以上押すと節電機能は解除され通常表示に戻ります。

* **AT**マークが点灯しているときは走行を始めると自動的に解除されます。

△注意 節電機能が働いているとき、登坂高度のデータは更新しません。

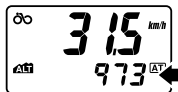
補足 節電機能が働くとき、その時点の積算距離、累積高度、タイヤ周長を記憶します。

計測と表示の機能



S 走行速度

メインディスプレイに表示し、1秒毎に更新します。
0.0(2.6) ~ 105.9 km/h [0.0(1.6) ~ 62.9 mile/h]



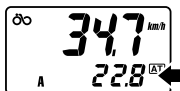
ALT 海拔高度 (標高) (メインモード)

現在位置の海拔高度(標高)を1 m単位でサブディスプレイに表示します。feetの場合は5 feet単位になります。
≒350 ~ 5800 m [≒1050 ~ 17400 feet]



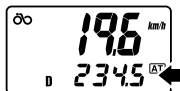
T 走行時間 (メインモード)

計測開始から現時点までの経過時間を時、分、秒でサブディスプレイに表示します。リセット操作でゼロに戻ります。
0:00'00" ~ 9:59'59"



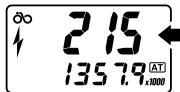
A 平均速度 (メインモード)

計測開始から現時点までの平均速度をサブディスプレイに表示します。
リセット操作でゼロに戻ります。走行時間で約34時間が走行距離で2684.3km [mile]をこえ
ると(E)を表示し、計測できません。
0.0 ~ 105.9 km/h [0.0 ~ 62.9 mile/h]



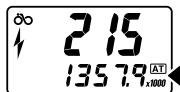
D 走行距離 (メインモード)

計測開始から現時点までの走行距離をサブディスプレイに表示します。
リセット操作でゼロに戻ります。
0.0 ~ 2684.3 km [mile]



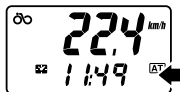
登坂高度 (登った高さ) (サブモード)

リセット地点から現地点までの登った高さをメインディスプレイに表示します。降下分は計算
されません。計測値が上限を越えるとゼロに戻り計測を続けます。高度マークが点灯し、サブ
ディスプレイは累積高度になります。
リセット操作でゼロに戻ります。単位がfeetの場合は1/10の値で表示します。
注意: 上限を越えると数値はゼロ復帰しますが、そのまま使用すると次回の上限が低くなり
ますので、一度リセット操作を行ってください。
0 ~ 2999 m [0 ~ 2999 x 10 feet]



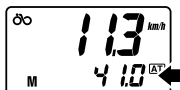
x 1 0 0 0 累積高度 (サブモード)

登った高さだけを累積しサブディスプレイに表示します。降下分は計算されません。10000
x1000 m [feet] で桁が変わります。
リセットできません。メインディスプレイは登坂高度になります。
0.0 ~ 16777 x1000 m [feet]



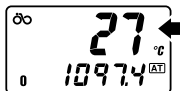
S2 12 時間時計 (サブモード)

現在時刻を12時間表示でサブディスプレイに表示します。



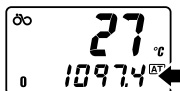
M 最高速度 (サブモード)

瞬間最高速度をサブディスプレイに表示します。リセット操作でゼロに戻ります。
0.0(2.6) ~ 105.9 km/h [0.0(1.6) ~ 62.9 mile/h]



°C/°F 気温 (サブモード)

現在の気温を20秒ごとに計測し、メインディスプレイに表示します。このときサブディスプレイは積算距離になります。
0 ~ 50 °C [32 ~ 122 °F]



O 積算距離 (サブモード)

サブディスプレイに表示し積算し続けます。10000 km [mile]で桁が変わります。リセットできません。このときメインディスプレイは気温になります。
0.0 ~ 42949 km(mile)

トラブルと処理

つぎの場合は故障ではありません。修理を依頼する前にチェックしましょう。

メインユニットのチェック方法 (図 25)

速度表示がでないとき、まずメインユニット裏面の2つの接点を金属片で断続的に数回ショートさせます。速度表示がでた場合は、メインユニットは正常で他に原因があります。

トラブル / チェック項目 / 対策

表示の動きが鈍くなる。

低温 (0 以下) になっていませんか?

温度が上がれば元に戻ります。データに影響はありません。

全く表示がでない。 またはライトボタンを押すと表示が消える。

電池が消耗あるいは消耗しかけていませんか?

新しい電池(CR2032)と交換します。(交換後は必ずACボタンを押し、速度単位 / 温度単位と時刻を再設定します)

2つの接点を断続的にショート

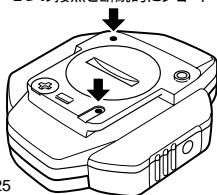


図25

異常な表示がでる。

静電気により異常な表示がでることがあります。

ACボタンを押し、速度単位と時刻を再設定します。

走行速度表示がでない。

本体あるいはブラケットの接点に何か付いていませんか？

接点を拭きます。

速度センサーとマグネットの距離が離れすぎていませんか？

速度センサーとマグネットの指示線がずれていませんか？

速度センサーとマグネットの位置を調整します。

コードが断線していませんか？

センサーコードセットを新しい物と交換します。

降雨時、走行中にスピードを表示しなくなる。

ブラケットの接点の水分とゴミを良くふき取り、撥水剤（シリコングリス）を塗布してください。

撥水剤はホームセンターなどで手に入るシリコングリスをご使用ください。一般の機械用グリスはブラケットが破損する恐れがありますので使わないでください。

S/Sボタンを押しても計測をスタート、ストップしない。

ATマークが点灯していませんか？

オートモードの時はS/Sボタンは働きません。

自転車から外して使うときに高度が変化しない。

自転車マークが点灯していませんか？

自転車マークを消灯させ、常時計測モードでお使いください。

高度が変化しない。

高度センサーキャップに物が詰まっていますか？

日常の手入れに従い高度センサーを掃除します。（症状が改善しないときはACボタンを押し、速度単位 / 温度単位と時刻を再設定します）

海拔高度（標高）の表示がおかしい。

海拔高度の補正を行なっていますか？

海拔高度は大気圧の変化により誤差を生じます。走行ごとに補正を行なってください。

日常の手入れ

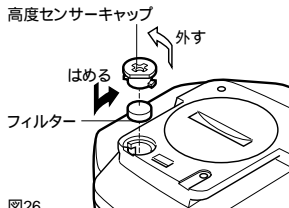


図26

高度センサーキャップが泥等で塞がると高度計測ができなくなります。悪路や雨中走行の後は点検し、次の手順で手入れしてください。(図26)

1. 高度センサーキャップを反時計回りにドライバーで回転させ外します。
2. 内部からフィルターを注意して取り出し、センサーキャップと共に水で洗浄します。
3. 元通りフィルターをはめ、センサーキャップを締めます。

△注意 フィルターの下には高度センサーがあります。ピンなどを差し入れないでください。

交換部品 / オプション部品

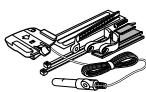
次の部品を別途販売しています。ご利用ください。



#169-6560/#169-6565



#169-6567/#169-6562



#169-6569

- #169-6560 ブラケットセンサーキット
- #169-6565 ブラケットセンサーキット(ロング)
- #169-6567 センターマウントキット
- #169-6562 センターマウントキット(ロング)
- #169-6569 ステムマウントキット
- #166-5120 ホイールマグネット
- #169-6170 アタッチメントキット
- #169-6280 ユニバーサルセンサーバンド
- #169-9730 ヘビーデューティワイヤ&ブラケットセンサーキット
- #169-9870 センサーホルスター
- #169-9835 リストバンド
- #169-9860 メインユニットホルダー
- #166-5155 リチウム電池(CR2032)
- #169-9880 高度センサーキャップ / フィルター



#166-5120



#169-6170



#169-6280



#169-9730



#169-9870



#169-9835



#169-9860






#166-5155



#169-9880

製品仕様

表示機能	マーク	範囲	標準精度
走行速度	S	0.0(2.6) ~ 105.9 km/h (27インチの時) [0.0(1.6) ~ 62.9 mile/h]	± 0.5 km/h(50km/h以下)
積算距離	O	0.0 ~ 42949 km [mile]	± 0.1 km [mile]
最高速度	M	0.0(2.6) ~ 105.9 km/h (27インチの時) [0.0(1.6) ~ 62.9 mile/h]	± 0.5 km/h
平均速度	A	0.0 ~ 105.9 km/h [62.9 mile/h]	± 0.5 km/h [mile/h] (走行時間10分以上の時)
走行距離	D	0.0 ~ 2684.3 km [mile]	± 0.1 km [mile]
走行時間	T	0:00'00" ~ 9:59'59"	± 0.003 %
12時間時計		0:00' ~ 11:59'	± 0.003 %
気温	°C/°F	0 ~ 50 °C [32 ~ 122 °F]	
海拔高度(標高)		-350 ~ 5800 m [-1050 ~ 17400 feet]	
登坂高度		0 ~ 2999 m [0 ~ 900 x10 feet]	
累積高度	x1000	0.0 ~ 16777 x1000 m [feet]	
制御方式		4ビットワンチップマイクロコンピュータ・水晶発振器	
表示方式		液晶表示(LEDによるバックライト付き)	
速度信号検知方式		無接触磁気センサー(コード長さ 70cm)	
使用温度範囲		0.°C ~ 40°C [32°F ~ 104°F]	
保存温度範囲		-20°C ~ 50°C [-4°F ~ 122°F]	
タイヤ周長セット範囲		0 cm ~ 255 cm (初期設定値: 203 cm)	
電源 / 電池寿命		CR2032 x 1 / 約1年 *電池寿命は高度計測を1日当たり1時間行なった場合	
メインユニット寸法 / 重量		56 x 52 x 22.5 mm / 41 グラム	

*仕様及び外観は改良のため予告なく変更することがあります。

特殊なボタン操作

メインユニットテスト用としてS/S / MODE / SETの3個のボタンを同時に押すと、20秒以内に節電モードになり、蓄積した積算距離、累積高度のデータをゼロに戻します。誤って操作しないようご注意ください。

タイヤ周長ガイド * タイヤサイズは通常タイヤの側面に記載されています。

タイヤサイズ	L(cm)	タイヤサイズ	L(cm)	タイヤサイズ	L(cm)	タイヤサイズ	L(cm)
16 x 1-3/8	128	26 x 1.25	195	26 x 2.35	208	700 X 23C	210
20 x 1.75	150	26 x 1-1/8 Tubular	197	27 x 1	215	700 X 25C	211
24 x 1	175	26 x 1-3/8	207	27 x 1-1/8	216	700 X 28C	214
24 x 3/4 Tubular	178	26 x 1-1/2	210	27 x 1-1/4	216	700 X 30C	217
24 x 1-1/8 Tubular	179	26 x 1.40	200	27 x 1-3/8	217	700 X 32C	216
24 x 1-1/4	191	26 x 1.50	199	650 x 35A	209	700C Tubular	213
24 x 1.75	189	26 x 1.75	203	650 x 38A	212	700 X 35C	217
24 x 2.00	192	26 x 1.95	205	650 x 38B	211	700 X 38C	218
24 x 2.125	196	26 x 2.00	206	700 x 18C	207	700 X 44C	222
26 x 1(559mm)	191	26 x 2.1	207	700 x 19C	209		
26 x 1(650c)	195	26 x 2.125	207	700 X 20C	209		

保証規定

2 年保証 メインユニットのみ (電池の消耗は除く)

取扱説明書に記載の正常な使用状態で、万一故障した場合は無料修理・交換します。保証サービスは当社にて直接行ないますので、保証書にお客様のお名前・ご住所・ご購入日をご記入の上、故障状態を明記して、製品と共に当社宛てお送りください。当社までお送りいただく際の諸費用はお客様にてご負担願います。電池の消耗やブラケット、速度センサーなどの付属品は保証の対象とはなりません。修理・調整を完了次第、当社より郵送にてお届けさせていただきます。

[宛先]

株式会社 **キャットアイ**

製品サービス課

〒546-0041 大阪市東住吉区桑津2-8-25

TEL: (06)6719-6863

FAX: (06)6719-6033



CATEYE CO., LTD.

2-8-25, Kuwazu, Higashi Sumiyoshi-ku, Osaka 546-0041 Japan

Phone: 81-6-6719-6863

Fax: 81-6-6719-6033

U.S. Pat. Nos. 4633216/4642606/5236759/5226340, Pat. Pending and Design Patented.